

実践交流会演題募集のご案内

会員が日々実践している取り組みをカテゴリーごとに持ち寄り話し合う場です。

当ネットワークの発足当初から続く交流会に是非ともふるって御参加ください。

今回の大会はハイブリット開催（WEBと現地）となります。発表者は現地での発表となりますのでご注意ください。

1. 実践交流会の特徴

実践交流会の企画は、NPO 在宅ネットワーク理事と地元の実行委員がタイアップして企画運営していきます。その職種ならではの企画にご期待ください。

* 演題発表は9のカテゴリーに分かれています。どのカテゴリーで発表していただくかは、運営上の都合により主催者側で調整させていただくこともございます。変更についてはあらかじめご相談させていただくことがございます、あらかじめご了承下さい。各カテゴリーとも他職種で支える在宅ケアの尊い実践のすばらしさをお伝えしたいと考えています。

2. 応募資格

- ・当会会員（非会員の方は応募は出来ません。ご加入後お申し込みください）
- ・入会に関しては当会 HP 入会案内をご参照ください。

<http://sasaeru-net.org/member/index.html>

入会申込については P17 の申込用紙をご利用ください。

3. 応募カテゴリーについて

1. 在宅生活の継続
2. 訪問サービス・通所サービス
3. 緩和ケアと看取り
4. 人材育成・教育
5. 地域で支える認知症ケア
6. 口腔ケアと栄養管理
7. 地域包括ケア
8. 新しい試み
9. 薬の医療介護連携

■演題発表・進行など形式につきましては各座長にて構成させていただきますのでご了承下さい。

■運営上の都合により発表カテゴリーを調整させていただく場合がございます

■発表プレゼンテーションは PowerPoint を使用してください。発表時間は7分質疑応答3分です。

4. 演題登録の流れ

原則としてインターネットを利用したオンラインによる演題申し込みとします。

※大会ホームページ【実践交流会登録】にお入りいただき、演題の申し込みを記載の上 e-mail にて受付致します。

e-mail:zenkokutaikai@irahara.or.jp

〈演題募集期間〉

2021年5月1日～6月30日まで（発表の抄録（400字以内）を登録）

〈発表スライド投稿期間〉

2021年8月1日～8月31日まで

演題登録から発表スライド登録の流れ

【1】「演題の申し込み」をメールにて送信、受理メールが届く

申込 2～3 日後に事務局より、申込受理のメールが届きます。

届かない場合は TEL にて事務局へお問い合わせください。

【2】採択通知メールが届く

募集締め切り後、7 日程度で「採択メール」が届きます。

※カテゴリーが変更になる場合もございます。

【3】発表スライドを投稿する

5. 演題登録時の注意事項（必ずお読みください!!）

1. 演題名は全角換算で60字以内（副題含む）、発表内容抄録文は400字以内、演者等を含めた総字数は600字以内です。
2. フォントは文字化けを防ぐため下記のいずれかのフォントにて作成してください。
日本語：MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝の計 4 種類
英語：Times New Roman、Arial、Arial Black、Arial Narrow、Century、Century Gothic、Georgia の計 7 種
3. 一旦登録した演題は、受付期間中であれば修正等可能ですが、演題登録締め切り以降の訂正、登録、削除は一切できません。

演題登録に関するお問合せ先

NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク事務局

いらはら診療所 浅沼・田中

TEL 047-347-2231 E-mail jimukyoku@sasaeru.net.org

各カテゴリー趣旨

1. 在宅生活の継続

座長：内田直樹 医療法人すずらん会 たろうクリニック院長

在宅医療・介護連携推進事業が自治体事業となった平成30年度において、在宅生活を継続するためのそれぞれの地域ごとの地域包括ケアシステムの構築が本格化しています。これまでの取り組みを継続しつつ、地域づくりと地域全体の事業所間連携・多職種連携の中での役割を意識した新たな取り組みが求められています。この交流会が各地の取り組みを共有し高め合う機会となることを願っています。

2. 訪問サービス・通所サービス

座長：菅原由美 全国訪問ボランティアナースの会 キャンナス代表

介護が必要となった時、在宅生活を継続するために、「訪問サービス」、「通所サービス」はかかせないサービスです。そのため、利用者やご家族の要望や期待も高く、ケア職の腕の見せ所、活躍できる所だと言えます。2000年4月に介護保険制度が始まって以来、ケア職は、日々目の前の利用者の援助について努力や研鑽を重ねて来た事は間違いありません。

このカテゴリーでは、現場の実践の中から得られたもの、工夫した事、成功事例や困難事例、また課題や悩み等、まさに現場の声を報告していただきたいと思えます。

語り、感じ、創造し、明日の実践へつなげましょう！全国のケア職の仲間達が元気になれる場にしたと思います。エントリーお待ちしております！

3. 緩和ケアと看取り

座長：三嶋泰之 医療法人社団佐倉の風 さくら風の村訪問診療所院長

「緩和ケア」「看取り」この言葉に対して、皆さんはどのような印象をお持ちでしょうか。在宅ケアを支えている皆さんにとって、マイナスイメージはほとんどないと思います。しかし、病気をもちながら必死に過ごしている多くの人にとっては「もうおしまいだ」などと悲観的な思いを抱く言葉でしょう。そうした思いを否定することはできませんが、こんなふうにご過ごしていきたい、こんな感じで最期を迎えたい、という願いは誰しもが持っているはずですので、それを叶えるべく少しでも前を向いていく気持ちになれる皆さんの経験談を紹介していただきたいと思えます。

緩和ケアを受ける本人が主役であることは当然ですが、家族などそれを見守る側も主役級の存在です。また、癌だけが緩和ケアの対象ではありません。本人も家族なども、もちろん独居でも、どんな病気でも日々穏やかに過ごしていけることを改めて皆さんと考えていきます。

緩和ケアの延長に看取りが存在しますが、それで完結ではないと思います。看取る側の日々はそれから続きます。グリーフケアなど看取った後の皆さんの取り組みの報告もお待ちしています。

最期を迎えるまでの時間を嬉しさいっぱいでも過ごす人などいません。そのような中でもあたたかくほっとできる瞬間をつくれるといいですね。この実践交流会のカテゴリーでは、そうした報告を聞いて自分のところに持ち帰り次につなげていく小さなきっかけとなる場を目指したいと思っています。

4. 人材育成・教育

座長：桑原由次 NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク理事

近年の実践交流会に参加して感じていることは以下の2点です。

- ①発表者の皆さんのプレゼンがとても上手になられたこと。
- ②それぞれに「起承転結」を意識しながら工夫を凝らした発表をされていること。

実践交流会の発表のために、日常の業務をこなしながら尽力されていることに敬意を表します。

さらに、会員の皆さんに伝えていただきたいことは以下の点です。

成果を生み出すために、また、進めていく上で

- ①様々な障害をどう乗り越えてきたのか
- ②職場の皆さんとの共有化を図るうえでどんな苦労があったのか

この点をぜひ掘り下げて報告していただけたらともうれしく思います。

介護・看護の現場での人材の育成・教育は一筋縄とはいきませんよね。どこの現場も試行錯誤しています。長崎おおむら大会の実践交流会を、知恵を集め、人材の育成を深化させる場にしましょう。

最後に私の心に沁みている一言です。

「ケアをなす人がどんな人間になろうとしているかという教育こそが重要である。」

ミルトン・メイヤロフ「ケアの本質」より

5. 地域で支える認知症ケア (with コロナ時代における)

座長：内門大丈 医療法人社団みのり会 湘南いなほクリニック院長

日本は2025年には団塊の世代が75歳以上となり、認知症高齢者は700万人に達すると推測されています。人生100年時代に向けて、認知症になっても安心して住み慣れた地域で暮らせる社会の仕組み作りや、認知症の人がお世話されるだけの存在ではなくその人らしく活躍できるようなケアが問い直され、新しい試みもされてきました。このような状況下で、2019年12月に中国の武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界的な流行となり、日本においても認知症を含めた高齢者が危機的状況にさらされ、新しい時代（with コロナ時代）でのケアの工夫が必要になってきています。

認知症の諸症状は脳の病気によるものだけでなく日常生活の中にも原因があることが分かり、薬物療法やケアの技法の見直しも進んでいます。ICT や AI の活用も試みられ、コロナ禍においては益々その重要度が増してきています。介護の現場には市民、行政、教育、民間企業など地域を巻き込んだ社会全体のネットワークも必要です。

with コロナの時代ではありますが、認知症の人を多職種間で考え協働して支えていくと共に、家族やご近所さんも関わり互いに助け合い、介護の受け手も支え手も元気になる社会を目指していきましょう。

認知症ケアの最先端は、現場の実践の中にあります。皆様の現場での取り組みに関する演題を募集します。

6. 口腔ケアと栄養管理

座長：小山亨 小山歯科クリニック院長

キーワード：「在宅で生活復帰」「栄養改善」「食べたらず、便秘改善」
「お薬飲めてますか?」「嚥下」「口から食べることの意味」

趣旨：平成から令和になり、各地でそれぞれの地域特性を生かした地域包括ケアシステムが構築されてきていることと思います。

病院から出された患者さんたちは、何らかの障害をかかえながら在宅（施設）で生活に復帰していきます。在宅（施設）で生活していくためには、まず第一に「食べること」「栄養を摂ること」を考えていくことが現場に求められています。それも、ただ“生きるためだけの栄養”ではなく、“元気になるための食生活”でなければなりません。そのために医療職は、介護にたずさわる家族、多職種と協働し、同じ方向を見てリハビリ（口腔ケア）し、栄養をサポートしていくことが必要です。

現時点での地域特性を生かした地域包括ケアシステムの中、それぞれの立場から、それぞれの現場での実践から見えること、問題点を発表していただき、みんなで考えていきましょう。
元気になるために！

7. 地域包括ケア

座長：松永平太 医療法人社団優和会 松永醫院院長

地域包括ケアの推進には、区市町村を基盤とし、その地域の属性、多様な資源の整備状況などを踏まえ、市民の参画と協働が不可欠です。ワンストップで分野を問わず相談支援を行うことや、サービスの提供にあたってはそれぞれの福祉分野の専門性に則りながらも支援を総合的に提供したり、ニーズの多様化や複雑化の中で多職種と連携してネットワークづくりに取り組んだり、自立支援や介護予防

の実践を通して市民とともに地域づくりに取り組んだ例など全国各地で様々な取り組みが行われています。この機会に我がまち、各分野での実践を是非発表しませんか。より良い地域包括ケアの推進についての課題や意見を出し合い、皆様と一緒に考え、他地域の方々との交流も深められるような交流会にしたいと思います。

8. 新しい試み

座長：畑 恒土 医療法人あいち診療会 あいち診療所野並院長

「新しい試み」には「事例そのもの」ばかりでなく、そこに含まれている様々な「知恵」に気づくことにより、また新たな「試み」に繋がる可能性を持っています。勿論、どのカテゴリーにもそれぞれそのような可能性は持っていますが

このカテゴリーの交流会において、様々な事例の発表を通じその「個々の試み」を伝えるばかりでなく、全体の発表を通じてそれぞれの「知恵」を感じ、持ち帰った皆様の地域の活動に少しでも寄与出来る・・・そんな場にしたいと思っています。

些細な内容でも大きなヒントにつながります。失敗例は成功例よりも多くの知恵が隠されています。「地域包括ケア」を含め多くの現実の流れの中で、いろんな「気づき」を参加された皆様方が持って帰れるような交流会にしたいと思っております。皆様の発表をお待ちしております。

9. 薬の医療介護連携

座長：萩田 均 有限会社メディフェニックスコーポレーション代表

在宅医療を必要とする患者は、その殆どが薬を服用・使用している。高齢者は疾病を多く抱え、多科受診するうちに薬の種類が膨らみポリファーマシー状態に陥っている事にしばしば遭遇する。一方小児の在宅医療では、薬の調整が微妙で大変複雑である。在宅訪問する薬剤師は、まずは薬の整理から始まり、剤型の工夫、一包化やカレンダー等ツールを駆使して患者や家族等に分かり易く調剤する。しかし、最大の目標は、患者の疾病の治療とQOLの向上である。そこで、本交流会では、薬を題材とした調剤や管理の工夫、多職種連携で実践できた様々な症例、在宅医療や介護に携わる多職種や介護にあたる家族の薬に関する困った事やさらにはポリファーマシーへの対策などを学び議論し、在宅医療がより発展するためにはどうしたら良いかを考えていきたいと思います。